

## 職員のメンタルヘルス対策の整備状況に関する調査結果

全国の基礎自治体における、心の健康づくり計画（以下、計画）・復職支援プログラム（以下、プログラム）・職員向けメンタルヘルス対策に関する手引き（以下、手引き）の整備状況について、調査を実施しました。

### 1. 調査結果概要

#### （1）調査期間

2023年12月11日に調査票を郵送にて配布し、回答期日を2024年1月31日までとして回答を受け付けました。

#### （2）調査対象

日本全国の基礎自治体<sup>1</sup>を対象としました。調査票の配布及び回答状況は表1のとおりです。送付総数は1,592件、回答数は323件で、回答割合20.3%でした。

#### （3）計画・プログラム・手引きの整備状況

計画・プログラム・手引きの整備状況は表2のとおりです。プログラムについては、48.9%と半数近い自治体で整備が進んでいる一方で、計画は17.0%、手引きは13.3%と、整備はあまり進んでいませんでした。

特に規模の小さい自治体では、計画が3.5%、プログラムが23.3%、手引きが8.1%と、整備が進んでいない状況が明らかになりました。

#### （4）計画等を整備する際に参考にした情報

計画・プログラム・手引きを整備する際に参考にした情報については表3のとおりです（複数回答可）。厚生労働省が発行している、職場における心の健康づくり～労働者の心の健康の保持増進のための指針～（計画：92.7%、プログラム：42.4%、手引き：67.4%）や、職場復帰支援の手引き（同、54.6%、37.8%、53.5%）の参考割合が高いことがわかりました。その一方で、他自治体が策定している計画・プログラム・手引きを参考にしていない割合も低くないこともわかり（同、43.6%、35.4%、48.8%）、自治体における波及効果が見られました。

なお「その他」の回答において、特定の団体が多数上がることはなかったため、計画・プログラム・手引き等で積極的に整備の支援を進めている団体は今のところはないことが推測されました。

---

<sup>1</sup> 配布時の不手際により、新潟県・富山県・石川県・福井県・山梨県・長野県内の基礎自治体（150件）は送付対象には含まれていません

#### (5) 計画等を整備していない理由

計画・プログラム・手引きを整備していない理由については表4のとおりです（複数回答可）。「専門的知識が必要なため」と回答している自治体が多数あり（同、64.9%、72.7%、67.5%）、特に職員数が300人未満の自治体ほど、そうした傾向が強いことがわかりました。

#### (6) メンタルヘルス対策に関する課題

メンタルヘルス対策に関する課題は表5のとおりです（複数回答可）。「休務する職員が増えている」という回答が多く（71.2%）、特に職員数が多い自治体ほどそうした傾向が強いことがわかりました。また、再発する職員数の増加や、療養期間の長期化なども課題になっているようです（それぞれ、42.1%、49.5%）。

なお、(5)と同様に、規模の小さな自治体では、「有効な対策がわからない」という自治体が多いことがわかりました。

#### (7) 今後の案内の希望

今後の研究等に関する案内の希望有無については、表6のとおりです。回答自治体のうち、38.1%の自治体から案内の希望がありました。回答自治体の規模が大きいほど、案内を希望する割合が高いことがわかりました。

#### (8) 高尾メソッドの認知度

業務遂行レベルに基づくメンタルヘルス対応（通称：高尾メソッド）の認知度について、五段階評価で回答してもらい、「内容は知っている」以上の回答を認知しているものとして、集計しました（表7）。認知している自治体は全体の20.1%であり、特に自治体の規模が大きいほど、認知度が高いことがわかりました。

## 2. 結果に関する気づきと考察

心の健康づくり計画や、安衛法にて事業者に対して策定が義務付けられているものであるにもかかわらず、策定があまり進んでいない状況が浮き彫りとなりました。また、休務した職員への対応をまとめた復帰支援プログラムは比較的整備が進んでいる一方で、全職員を対象とした事前の準備として位置付けることができる手引きについても同様に、策定があまり進んでいないことが明らかになりました。

本来あるべき姿としては、トップ・市としての方針を定めた計画がまずあり、それに紐づけられる形で、手引きとプログラムが策定されているというものです。こうした状態を目指すべく、計画・手引き・プログラムの統合的な策定支援を進めるべきだと考えました。

また、規模の小さな自治体は、計画・プログラム・手引きなどの整備が進まず、その理由として「専門知識が必要だと考えている」割合が大きいため、モデルを提供することで、導入が容易になり一気に普及が進むことが考えられます。ただし、その反面、新しい情報に対する情報収集の意欲が高いとは言えず、モデルを公開したとしても、それがリーチする可能性は低いことも想定されます。

これらを解決するキーの一つとなりうるのが、近隣自治体からの波及だと考えます。この点については、どのような地域・規模の自治体同士で意見交換や連携しているのか、ヒアリング等の調査を進める必要があると考えました。

### 3. 集計結果の詳細

【表1】調査票の配布及び回答状況

職員数*	総計	<100		100-300		300-1000		1000<	
調査票回答	323 (20.29)**	86	(26.63)	128	(39.63)	83	(25.70)	26	(8.05)
調査票配布	1,592	488	(30.65)	597	(37.50)	383	(24.06)	124	(7.79)

\*総務省が集計している、令和4年4月1日時点における各自治体の一般行政職員数に基づき、100人未満、100人以上300人未満、300人以上1000人未満、1000人以上の4つに分類。以下同様。

\*\* ()内は。以下同様。

【表2】計画・プログラム・手引きの整備状況

	全体 (n = 323)	<100 (n = 86)		100-300 (n = 128)		300-1000 (n = 83)		1000< (n = 26)		
心の健康づくり計画										
あり	55 (17.03)	3 (3.49)	13 (10.16)	23 (27.71)	16 (61.54)					
なし	268 (82.97)	83 (96.51)	115 (89.84)	60 (72.29)	10 (38.46)					
復職プログラム										
あり	158 (48.92)	20 (23.26)	59 (46.09)	58 (69.88)	21 (80.77)					
なし	165 (51.08)	66 (76.74)	69 (53.91)	25 (30.12)	5 (19.23)					
メンタルヘルス対策に関する手引き										
あり	43 (13.31)	7 (8.14)	14 (10.94)	14 (16.87)	8 (30.77)					
なし	280 (86.69)	79 (91.86)	114 (89.06)	69 (83.13)	18 (69.23)					

【表3】計画・プログラム・手引き策定時に参考にしたもの

	計画あり (n = 55)		プログラムあり (n = 158)		手引きあり (n = 43)	
職場における心の健康づくり (厚労省指針)	51	(92.73)	67	(42.41)	29	(67.44)
職場復帰支援の手引き (厚労省指針)	30	(54.55)	60	(37.97)	23	(53.49)
地安協発刊物	10	(18.18)	31	(19.62)	11	(25.58)
他自治体の計画など	24	(43.64)	56	(35.44)	21	(48.84)
高尾メソッド	4	(7.27)	13	(8.23)	1	(2.33)

【表4】計画・プログラム・手引きを整備していない理由

	計画なし (n = 268)		プログラムなし (n = 165)		手引きなし (n = 280)	
必要性を感じない	22	(8.21)	13	(7.88)	17	(6.07)

過去に整備していたが廃止となった	1	(0.37)	0	(0.00)	1	(0.36)
手間がかかる	79	(29.48)	40	(24.24)	84	(30.00)
費用がかかる	18	(6.72)	8	(4.85)	18	(6.43)
専門知識が必要	174	(64.93)	120	(72.73)	189	(67.50)

【表5】メンタルヘルス対策に関する課題

	全体 (n = 323)		<100 (n = 86)		100-300 (n = 128)		300-1000 (n = 83)		1000< (n = 26)	
休務する職員が増えている	230	(71.21)	43	(50.00)	94	(73.44)	71	(85.54)	22	(84.62)
再発する職員が増えている	136	(42.11)	23	(26.74)	47	(36.72)	47	(56.63)	19	(73.08)
対策に要する予算が取得できない	13	(4.02)	6	(6.98)	1	(0.78)	3	(3.61)	3	(11.54)
療養期間が長期化している	160	(49.54)	29	(33.72)	67	(52.34)	51	(61.45)	13	(50.00)
有効な対策がわからない	157	(48.61)	50	(58.14)	59	(46.09)	41	(49.40)	7	(26.92)
課題は特にない	16	(4.95)	12	(13.95)	4	(3.13)	0	(0.00)	0	(0.00)

【表6】今後の案内の希望

	全体 (n = 323)		<100 (n = 86)		100-300 (n = 128)		300-1000 (n = 83)		1000< (n = 26)	
案内の希望有り	123	(38.08)	12	(13.95)	45	(35.16)	43	(51.81)	23	(88.46)
案内の希望無し	197	(60.99)	73	(84.88)	81	(63.28)	40	(48.19)	3	(11.54)

【表7】高尾メソッドの認知度

	全体 (n = 323)		<100 (n = 86)		100-300 (n = 128)		300-1000 (n = 83)		1000< (n = 26)	
聞いたことがない	174	(53.87)	60	(69.77)	72	(56.25)	37	(44.58)	5	(19.23)
聞いたことはあるが、内容について詳しく知らない	83	(25.70)	23	(26.74)	34	(26.56)	20	(24.10)	6	(23.08)
雑誌等で読んで内容は知っているが、使っていない	24	(7.43)	3	(3.49)	7	(5.47)	10	(12.05)	4	(15.38)
地安協研修等で学ぶなど、独自に情報収集をして使っている	27	(8.36)			11	(8.59)	7	(8.43)	9	(34.62)
公式にサポートを受けて使っている	14	(4.33)			3	(2.34)	9	(10.84)	2	(7.69)
認知度 (内容は知っている以上の数)	65	(20.12)	3	(3.49)	21	(16.41)	26	(31.33)	15	(57.69)